

北海学園大学 室内楽団 力・ム学園

室内楽 演奏会

日時：2009年12月20日（日）

開場：14:30 開演：15:00

会場：豊平館



W. A. Mozart



J. Haydn



E. Elgar

(写真上から3枚、以下アドレスより引用)

http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/1/1e/Wolfgang-amadeus-mozart_1.jpg/250px-Wolfgang-amadeus-mozart_1.jpg

http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/2/21/Haydn_portrait_by_Thomas_Hardy_%28small%29.jpg

http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/c/cf/Edward_Elgar.jpg/240px-Edward_Elgar.jpg

Programs —プログラム—

1. *W. A. Mozart* : Strings Quartet No.3 K.156

モーツァルト:弦楽四重奏曲 第3番 K.156 (15分)

2. *J. Haydn* : Strings Quartet Op.3 No.5 HobIII-17 "SERENADE"

ハイドン:弦楽四重奏曲 第5番 作品3-5 "セレナーデ" (16分)

3. *W. A. Mozart* : Strings Quintet No.3 K.515

モーツァルト:弦楽五重奏曲 第3番 K.515 (34分)

4. *E. Elgar* : Serenade for Strings Orchestra in E minor

エルガー:弦楽セレナーデ 作品20 (12分)

Players —演奏者—

Violin : ◎池田 糸男 ○佃 由華 ●湊 真由美
 ●木村 恭久 ●境谷 香奈 ●丸山 聡子

Viola : ○佐藤 純一 ●佐藤 奨 ☆波多野 和子

Cello : ○高田 亮 ☆田中 富美子

Contrabass : ●駒野 明子

◎:教授 ○:学生 ●:OB・OG ☆:インストラクター

<プログラム 解説>

1. W. A. Mozart : Strings Quartet No.3 K.156

モーツァルト：弦楽四重奏曲 第3番 K.156

K.156 は極めて初期の作品で、この曲が作曲されたときモーツァルトは16歳。初めて弦楽四重奏曲の作品を書いて2年後のことだそうです。第1楽章は馴染みやすくどこかで聴いたことのあるようなメロディーを Violin が歌い、他の3パートが伴奏をしていることにより、より一層メロディーの存在感を与えているように感じられます。第2楽章はト長調からホ短調に変わり物悲しさが表現されて、Violin は終わるにつれ徐々に表情を変えていきます。これにはモーツァルトによる自筆譜が2つ存在することによるらしいです。モーツァルト自身になにか心境の変化でもあったのかも知れませんね。楽章内で2箇所ほど Cello と Violin(2nd)&Viola の掛けあい（シンコペーション）がでてきます、わかるでしょうか？第3楽章はト長調→ト短調→ト長調という3部形式をとっています。ト短調のところでは Viola と Cello による…いわゆる“おっかけ”の箇所がでてくる等と面白さが増します。全楽章を通してどこかハイドンの曲の雰囲気似ているなあとも感じます…ですがやはりモーツァルトらしい曲！！ 気のせいなのでしょうか…。

この曲は現役生3人に教授を加え4人で演奏します。

2. J. Haydn : Strings Quartet No.17 Op.3-5 ”SERENADE”

ハイドン：弦楽四重奏曲 第17番 作品3-5 “セレナーデ”

“交響曲の父”であると同時に“弦楽四重奏曲の父”でもあるハイドンの弦楽四重奏曲の中で最もポピュラーな作品のうちのひとつ“セレナーデ”。1楽章は3/8拍子で何か踊りだしたくなるような軽快な曲調の楽章です。中間部ではユニゾンの箇所もでてきます。第2楽章は誰もが一度は耳にしたことのある曲。1st Violin が気持ちよくメロディーを歌うなか他パートは最後までピッチカートという演奏形態となっています。なぜか故郷を思い出す…そんな気持ちにさせられてしまう楽章ですね。Violin のメロディーに酔いしれてください。次の第3楽章は華々しさ、軽々しさが感じられる楽章です。Trio(中間部)では、なぜか Viola は弾いていません…決して間違いではないのでご安心ください。終楽章はテンポも上がり早足で歩いているような…少し焦っているような…そんな気持ちにさせられてしまいます。

この曲は現役生3人に教授を加え4人で演奏します。

3. W. A. Mozart : Strings Quintet No.3 K.515

モーツァルト：弦楽五重奏曲 第3番 K.515

モーツァルトは弦楽五重奏曲を6曲残している、その中でも第3番は第4番に並び名曲と言われています。第1楽章では Cello と Violin がテーマを交互に呈示しています。何かを予感させるような冒頭部分、トリオでは華やかな一面もある第2楽章。第3楽章はゆっくりと落ち着いた曲で、Violin と Viola が奏でる二重奏はまるで会話をしているようにも思われます。そして第4楽章は外で遊んでいるような、躍動感あふれる楽章です。

学生・教授に OB・OG、さらにインストラクターを加え演奏します。

4. E. Elgar : Serenade for Strings Orchestra in E minor

エルガー：弦楽セレナード 作品20

この作品は非常に伸びやかな旋律と何かを訴えてくるかのような和音の美しさがなんとも印象的ではないかと思います。第1楽章では Viola から始まり暗闇の中、一点の光が差しているような奇妙な感じを受け、その後 Cello と Contrabass によるピッチカートによりこの曲の奥深さを感じられるような気がします。第2楽章はゆったりとしていて第1楽章とは雰囲気も変わり物悲しさ、繊細さ、美しさという言葉が似合う楽章です。哀愁漂うメロディーがなんとも言えません。第3楽章では前半は何かしらの楽器が (♪ ♪) この音形を演奏しています。後半はどっかで聞いたことあるような…、そうです…第1楽章の冒頭部分と楽器こそ違いますが音形は全く同じです。この2点に注目してみると面白いかもしれません。

学生・教授に OB・OG、さらにインストラクターを加え演奏します。



現役生プロフィール

佃 由華 (Violin)

生年月日. 1989/2/5 血液型. A 星座. みずがめ座

学部学科. 法学部 法律学科 (3年)

自分を一言で言うと? 感情性豊か。悪く言えば、涙もろい……。

自分から音楽を取ると何が残る? 可愛い仕草かな (笑)

楽器に一言!! 恋文を書きます。→「あなたに出会ってから7年が経ちますね。途中、まったく弾けなかったときもあったけど、これまで見守ってくれてありがとう。母の肩もみをすると指先の力が強くて喜ばれます(笑) これはヴァイオリンのおかげだと思います。良かった、良かった!!」

今回の演奏会への意気込みを!! 「一期一会」って素敵な言葉ですよ。こうやって今日、皆さんの前で演奏できることが嬉しいです。このとき、この瞬間に全力を注ぎたいと思います。

佐藤 純一 (Viola)

生年月日. 1987/3/6 血液型. B 星座. うお座

学部学科. 法学部 法律学科 (4年)

自分を一言で言うと? 遅刻魔

自分から音楽を取ると何が残る? 無趣味で寂しい人生

楽器に一言!! 今日も可愛いよ♥

今回の演奏会への意気込みを!! 楽しく弾きながら、お客様にも楽しんでいただけるよう頑張りたいと思います。

高田 亮 (Cello)

生年月日. 1987/4/15 血液型. AB 星座. おひつじ座

学部学科. 工学部 電子情報工学科 (1年)

自分を一言で言うと? 典型的なAB型 (だと思っています)。

自分から音楽を取ると何が残る? 何も残らないかな。とにかく音楽が好きなんです。

楽器に一言!! チェロ君、重いよ。楽器の持ち運びには一苦労。でも君は人情味溢れる音を出してくれますね。もっと上手な人に弾いてもらえれば、よりいいのにね……。

今回の演奏会への意気込みを!! この楽団に入団して、半年程が経ちました。この演奏会は、この楽団にとって一番大きな舞台といえるでしょう。なので、悔いの残らないように、失敗を恐れずに今できる演奏がしたいです。

カ・ム学園 プロフィール

カ・ム学園は北海学園大学で活動している団体で一昨年に楽団創立 10 周年を迎え今年で 12 年目となりました。当楽団は学生のほかインストラクターとして波多野 和子(Violin&Viola)、田中 富美子(Cello)に毎回、音合わせに参加していただき活動をしています。

現在学生は 3 人と少ないながらも必死に努力しているのが現状です。今後は学生数を増やすことが当団最大の課題だと考えております。

創立から 12 年という月日が経ち本年度は現顧問の池田教授と学生 3 人の計 4 人でカルテットが成立するという何ともいえない幸運にも恵まれました。

毎年、数名の団員を入団させるには一層の努力が必要です。本学の学生への認知度が低いこと…、先ずこれを改善することが第 1 歩であり、また Violin や Cello という楽器は小さい頃から慣れ親しんでないとできないのでは？と考える人も少なからずいると思います。このような固定観念を持っていることも入団者が少ない要因のひとつではないかと考えております。

そんな中、初代団長の井出 真美子 (経営卒)をはじめ工藤 亜希子(法卒)、片岡 真由美 (現姓・湊) (法卒) 各々の団長の努力があったからこそ、今日のカ・ム学園があるのです。大変、感謝しております。

その他、カ・ム学園は毎年、市内の保育園へと出向き演奏活動を行っています。さらに本年度は朝日生命 (北営営業所) からの依頼も受け演奏をしてきました。

これからも皆様のご支援とご鞭撻のほどをよろしく申し上げます。(文中、敬称略)

本日はご来聴頂き誠にありがとうございました
北海学園大学 室内楽団 カ・ム学園 一同

